

神楽名

とねがわ 十根川神楽

伝承地

十根川地区
椎葉村大字下福良

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

十根川神楽保存会
代表 那須 良市



万才

◆ 神楽の概要・由来・その他

十根川地区は国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、「椎葉型」といわれる独特の建築様式の民家が建ち並び歴史的景観を保持している。

十根川神楽は、椎葉村を流れる耳川の支流、十根川沿いの山腹に位置する十根川神社神楽殿にて奉納される。社殿西側の国指定天然記念物である八村杉やむらすぎは、元久年間に那須大八郎宗久なすのだいはちろうむねひさが、源頼朝の命により平家の残党討伐の為訪れ、その手で植えたと伝わる。社伝によると十根川神社は元久元年（1204）の勧請と伝わり、明治のはじめの改称以前は八村大明神やむらだいまいようじんと称した。御祭神は大己貴命おおなむちのみこと。十根川、大久保、椎原しいばる、鹿野遊かなすび、内の八重うち はえの五集落を氏子としている。神楽の祝子ほうりこ（舞手）は十根川、大久保が勤める。舞衣の鮮やかな鳳凰ほうおうの染め付けが特徴的である。神社本殿前に設ける注連立めたて たかまがはらを高天原と称し、3本の注連の中央から神社拜殿の扉に2本の綱を引き、綱には月光と日光を表す御笠が飾られる。夜神楽の演目数は上、下、照経しょうぎょうに分かれており、全三十三番が残る。

◆ 芸能の機会・場所

- 十根川夜神楽... 12月の第3土、日曜日。十根川神社神楽殿にて

◆ 演目一覧

| | | | | |
|--------------------------|------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 御神甲屋 <small>みこうや</small> | 有長 <small>ありなが</small> | 氏神大神照経 <small>うじがみだいじんしょうぎょう</small> | 氏神大神 | 三大神 <small>さんだいじん</small> |
| 大神神楽(子供) | 住吉 | 総願成就(一般) <small>そうがんじょうじゆ</small> | 柴引 | 伊勢の照経 |
| 伊勢の神楽 | 地割(帯の手) | 地割(剣の舞) <small>ちわり</small> | 地割(神送り) | 森の照経 |
| 森神楽(矢の手) | 森神楽(弓の手) | 万才 <small>まんざい</small> | 願成就(氏子) | 鬼神 |
| 稲荷の照経 | 稲荷神楽 | 年の神 | 五ッ天 <small>こつてん</small> の照経 | 五ッ天神楽 |
| オキエの照経 | オキエの舞 | 戸取り | 手力男 <small>たちから</small> | 火の神 |
| 神送り | 本殿祭 | 七五三 <small>し め</small> の照経 | 七五三引神楽 <small>し め ひきかぐら</small> | 宮山大神 <small>みややま だいじん</small> |
| 宮山地割 | 神送り・宮静め | | | |

※平成28年12月の神楽奉納の番付に基づく

◆ 演目の特徴

祭り3日前から行う御神甲屋^{みこうや}の注連、御幣切り等の準備は「えりめ」とよばれる。神楽の翌日の片付けのことを「板起し^{いたおこ}」と云い、椎葉村の他の地区の神楽でみられる、神楽に先立ち文言を唱え場を浄める神事とは別物である。目覚ましの舞と云われる「万才^{まんざい}」はこぶ面と猿面が面白おかしく宝（一升瓶）を取り合う、宝渡しの演目である。「火の神」では祝子たちがめしょう以外の面を被り、採り物を持ち御神甲屋を飛び出し、村人も交えて賑やかに舞い、神楽殿の入口で車座になり面を脱ぎ、神酒^{みき}を酌み交わす。神楽殿での夜神楽は前夜祭であり、日曜の朝に神社本殿で神事と式三番（実際は四、五番）を奉納する。

◆ その他の特徴

- 面...こぶ面、稻荷、柴引、戸取、手力、めしょう面 等
- 楽...太鼓、笛
- 装束...白の舞衣（鳳凰^{ほうおう}）、白袴、袴、裁着袴^{たっつけはかま}、御笠、頬被、烏帽子、ケン（三角形の紙型）、鉢巻 等
- 採り物...鈴、扇、御幣、刀、面棒^{めんぼう}、襷、弓、矢、榊枝、盆、一升瓶、小槌 等
- 文書...「御神甲屋」昭和五年十一月吉日、「神祭秘法大全」昭和八年旧十一月 等

◆ 伝承の現状・課題

十根川地区と大久保地区を合わせて世帯数は16戸。祝子は15名。子供神楽は鹿野遊地区^{かなすび}の子供達が舞う。現在廃校となった鹿野遊小学校があった頃は、学校でも神楽を披露していた。以前小学校に赴任していた先生が現在でも神楽に参加されている。唱教を全て覚えていた者が逝去し、皆で練習している。笛の後継者育成も課題である。夜半より女性達によって神楽せり唄がうたわれ、座が賑わう。伝承のため、若い女性たちにもせり唄の参加を促している。



森神楽（弓の手）



手力男



火の神